

ISTS スタイルチェックリスト

下記ガイドラインに従い、投稿前に原稿スタイルを確認してください。

- 書誌情報は削除 (TeXで原稿を作成している場合、`\documentclass[ISTS]{tjsass}`とする。)
 - ページ番号は不要
 - 論文タイトル：各単語の1文字目が大文字
 - 著者名：Family nameは大文字フォントサイズ10pt, **2文字目以降のフォントサイズ8pt**
 - 第1著者名の前に“By”を入れる。
 - 著者が3人以上の場合、各著者名の間にカンマ、最後の著者名の前は“,” and”とする。
最後の著者名の後にカンマは不要
 - 著者名の右肩に所属機関の番号を1)のように入れる。1)はカンマの後
 - 所属機関名はイタリック, city nameを忘れず入れること。
ただし、県名は不要。東京23区特別区の場合は、Tokyoを入れる。
 - キーワード：各単語の1文字目は大文字
 - アブストラクト開始は4文字インデント
-
- **記号表：数字順に続きアルファベット順 (A, a, B, b, C, c, …, Z, z) , その後, ギリシャ文字(でアルファベット順: $\alpha, \beta, \gamma, \dots$), 添え字も同様**
-
- パラグラフ開始は2文字インデント
 - Major-heading タイトルは, 各単語の1文字目は大文字
 - Major-heading タイトル後の文章は, 1行空白行を入れてから開始
 - Sub-heading タイトルは, 最初単語の1文字目だけ大文字
 - Sub-heading タイトルとMajor headingタイトルの間には1行空白行を入れる
 - Sub-heading タイトルの開始と1つ前の文章の間には空白行は入れない。
ただし, 最初のSub-heading は例外とし, 1つ前の文章との間に1行空白行を入れる。
(Templateファイルの3.1節, 4.1節の例を参照)
 - heading番号とheading title文字との間は2文字空白
-
- 参考文献引用の“右肩)”は, カンマ, ピリオドのあと
-
- 図の解像度は十分なものに
 - 他の文献等から取った図表を含む場合, 著作権委譲許可を著者自身で取ること。
 - 図・表キャプションの最後にピリオド
 - キャプション文字は最初の単語の1文字目だけ大文字
 - 図キャプション Fig. x. (2文字空白) キャプション. (xは図番号, 図番号の後にピリオドが必要)
 - 表キャプションTable x. (2文字空白) キャプション. (xは表番号, 表番号の後にピリオドが必要)
 - 図・表キャプションは1行の場合はセンタリング, 複数行に渡る場合は 最後の行だけ左揃え, それ以外の行は両側揃え
 - 図・表キャプションと本文の間には1行空白行を入れる。
 - **表の最初と最後の横線は太線 それ以外は普通の太さの線. 2重線にしない.**
縦線は入れない (表の縦のカラムの区別がつきにくいときのみ縦線を入れる。)
 - 図を参照する際, 文章開始時は, “Figure x”と書く (文頭では“Fig. x”とは書かない。) 文中では“Fig. x”と書く. Fig. と図番号xの間に1文字空白をいれる。
 - 1つのFigureに複数の図があり, 区別するときはFigure中に(a) (b)のように丸括弧で囲んだ識別アルファベットを入れる. 本文中での参照は, 文章開始時では, “Figure 1(a) (Figures 1(a) and 1(b))”, 文章中では, “Figs. 1(a) (Figs. 1(a) and 1(b))”

とする。

- 式を参照する際、文章開始時は、Equation (x) と書く。
(文章中では、Eq. (x) と書く。Eq. と (x) の間に 1 文字空白を入れる。)
 - 表を参照する際、文章開始時、文章中ともに “Table x” と書き、省略しない。
 - 節を参照する際、文章開始時、文章中ともに “Section x” 等と書き、省略しない。
 - 式はセンタリング、式番号は右揃え丸括弧で(1)のように囲む。
-
- 参考文献heading (References)はセンタリング
 - 参考文献
著者名：全員書く：Family name, First nameのイニシャル。
論文タイトルは各単語の 1 文字目は大文字（冠詞、前置詞は除く）
Middle nameのイニシャル. とFirst nameのイニシャル. との間に 1 文字空白を入れる。
3 名以上の場合、最後の著者名とその前の著者名の間は，“, and” とする。
6 名以下の場合、著者名を全員記載する。
著者名が6名よりも多い場合にのみ、6 名分の著者名を記載し、以降をet al. と省略することは可能
最後の著者名と論文名の間はコロン：
日本語の参考文献の場合，“(in Japanese). ” を最後に入れる。

書籍の場合：

著者名：書籍名(イタリック)、出版社名、出版都市名、年、該当ページ。
年は丸括弧で囲まない。

雑誌の場合：

著者名：論文名、雑誌名、巻号年ページは、**volume number** (year), pp. xx-yy.
ists特集号の場合には、巻号年ページは、**volume number**, ists xx (year), pp. xx-yy. のようにissue numberも入れる。
ページ番号の間は- (ダッシュ)
論文名の各単語の 1 文字目は大文字
論文名はダブルコーテーションで囲まない。
雑誌名はイタリック、*Journal of XX* などの雑誌名は *J. XX* と略記表記する。
volume numberはボールド、volume numberと(year)の間に 1 文字空白
doiは不要
page が存在しないオンライン論文の場合、article ID等を入れる。
pp. とxx-yy. の間に 1 文字空白

proceedings (国際学会) の場合：

著者名：論文名、Proceedings of 大会名、開催都市名、開催国名、
当該ページ(存在すれば) または論文番号、year。
Proceedings of 大会名はイタリックにしない。
Proceedingsが紙媒体で配布されていない場合、Proceedings of 大会名の部分は、大会名
のみにする。
年は丸括弧で囲まない。
大会の開催回数(序数)のth は上付きにしない。
AIAA paperの場合：大会開催場所は不要。著者名：論文名、AIAA Paper year-ID, year.
と書く。

Web上の文献 (URL) の場合，“(accessed Month day, year). ” を最後に入れる。

Web上の文献で日本語の場合，“(in Japanese) (accessed Month day, year). ” の順番とする。